
印象

martini

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

印象

【Nコード】

N4514F

【作者名】

martini

【あらすじ】

FBIと江戸川コナンがどうやって会ったのだろうか？この話は、それを書いた、物語である。

コナンは、杯戸中央病院にいた。

工藤新一の時の知り合いが、怪我をして入院したのだ。

どうして君が来たのか、と聞かれたときは

『新一兄ちゃんは忙しいから、伝言を添えて、新一兄ちゃんのかわりにお見舞いに来たよ。』

と言うつもりだ。

確か部屋番号は・・・

そう考えながら、その番号らしき部屋を開ける。

そこにいたのは・・・

「ジョディ先生?!」

「く、coolkid!」

そう、ジョディだ。

そこには、ニット帽をかぶった男性と、白髪を生やしたおじさんもいた。

ジョディは、急にコナンが入ってきたことに、驚いて声も出ないようだ。

コナンは、ニット帽をかぶった男性と、白髪を生やしたおじさんを知っている。

ニット帽の男性は、バスジャック事件の時に乗っていた、あの男性。

コナンは、何かに気付いたらしく、不敵な笑みを浮かべた。

そして、ゆっくりと口を開いた。

「ねえ、ジョディ先生。英語の先生の前にやっていた仕事ってなあに? いや、今もやっている仕事かな?」

「え？」

ジョディは、いつもと違うコナンの様子に、わけが分からなくなっ
てしまったらしい。

その様子に、コナンはさらに笑みを深くする。

「『ジョディ・サンテミリオン』」

「!?!」

ジョディの表情が急変する。

険しい表情へと変わった。

「それ、偽名でしょう？本名は・・・」

一旦、言葉を切った。

赤井の鋭い視線に気付いたからだ。

しかし、コナンはその視線を無視して、言葉を続けた。

「本名は、『ジョディ・スターリング』。日本に潜入した、FBI捜査官。違う？」

笑みをさらに深くするコナン。

「そしてあなたは、ジェイムズ・ブラック。ジョディ先生と違って、偽名を使っていないんだよね？ジョディ先生の上司つてところかな。そして、最後。あなたは、バスジャック事件と一緒に乗っていた男、赤井秀一。同じく、FBI捜査官。」

ジョディ、赤井、ジェイムズの3人の顔は、険しかった。

その様子を見て、コナンはさらに笑みを深くする。

そして、さらに口を開いた。

「コードネーム、
暗号名、
『ライ』。」

「!!」

今度は、赤井が険しい表情になった。

さらに鋭い視線を、コナンの向ける。

「とある組織の、元構成員。組織の幹部を追い、その尻尾をつかみかけた。しかし、一人の捜査官のために、失敗。組織全体に、FBIということがばれた。そして、宮野志保、暗号名^{コードネーム}シェリーの姉、宮野明美は、あなたの恋人。しかし、宮野明美も、その組織の幹部に殺され、FBIに戻った。まあ、知っているのはこれぐらいかな。どう？合ってる？」

コナンの言葉に、3人は見事に固まってしまった。

その時、赤井が口を開いた。

「その質問に答える前に。君は何者だ？」

赤井の質問に、コナンはすぐに答えた。

「Need not to know（知る必要のないこと）・・・
僕はただの小学生だよ？」

コナンのその言葉に、皆は考える。

‘need not to know’とは、警察隠語だ。

英語にあるわけがない。

しかし、必死に考えているジョディ達を見て、コナンはクスツと笑ってしまった。

‘need not to know・・・警察隠語で、知る必要のないこと’ってことだよ・・・」

コナンに言われ、初めてジョディ達は気が付いた。

「警察隠語？君は、警察と関係があるのか？」

「もちろん。たまに新聞にも載るよ。警察とも関わりが深いから、よく犯人に狙われるけど。」

コナンは、フツと笑う。

その様子を見て、赤井はさらに問う。

「ただの小学生、か・・・警察隠語まで教えてもらっているのに？」

「まあね。無理矢理教えてもらったようなものだよ。やさしい刑事さんがいるからね。」

言葉はとても優しいようだが、二人は睨み合っていた。

ジヨディとジェームズは、ただその場で立って、その場を見守るしかない。

「質問に答えてくれる？ 僕の話は・・・合っていたの？」

『・・・』

3人は、黙っている。

赤井は、フツと笑った。

「さすがだな・・・その通りだ。俺達とはある組織を追って日本にきた、FBI捜査官。すべて、君の言った通りだ。」

「やっぱりね・・・そうだ、名前を言うの忘れてたね。僕は江戸川コナン。宜しくね、赤井さん？」

「ああ、宜しくな・・・ボウヤ。」

FBIと江戸川コナン。

両者はこうして会った。

赤井はコナンを、コナンは赤井をどういう風な印象を受けたか？

「この人・・・赤井さんは切れ者だ。油断していたら、正体がばれちまう・・・味方でも、油断大敵だな・・・」

「この子供・・・ボウヤは、結構切れ者だな。よく俺達の正体に気付いたものだ。これから、共に組織を追いそうだ・・・」

FBIと江戸川コナン・・・

共に組織を追う日は、そう遠くないだろう・・・

END

（後書き）

コナンとFBIの出会いを書いてみました！

見たことがないので、適当です。

それに、なぜFBIが病院にいるの？！

書いた私も不思議に思います・・・

なんか、場所が思いつかなくて・・・

すみません！

読んでくださり、ありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4514f/>

印象

2011年1月2日03時07分発行